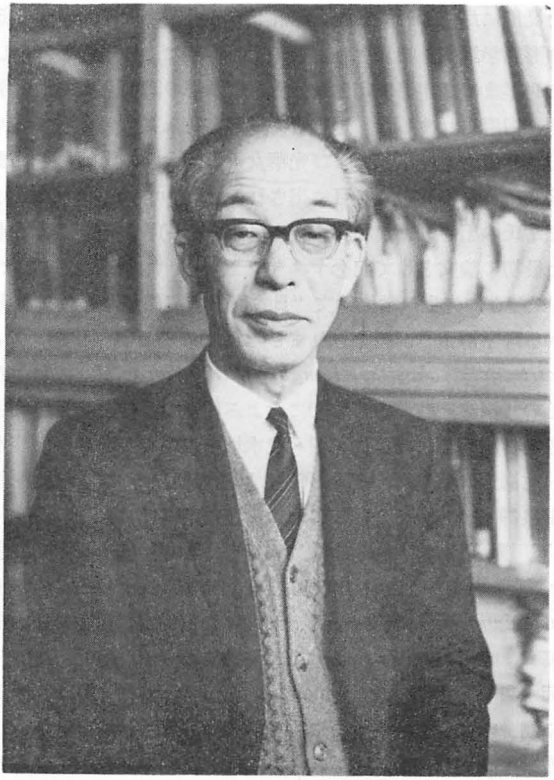
ノート

梅崎　勇：**米田勇一先生と藻類学研究**　Isamu UMEZAKI: Yuichi YONEDA (1907–1977)



Yuichi Yoneda (1907–1977)

恩師米田勇一先生が去る5月6日病気のため急逝されました。享年69才でした。先生は，藻類学とくに温泉藻と淡水藻の研究に生涯を捧げ，日本の淡水藻の分類学の基礎を築かれました。また，日本藻類学会の発起人として設立に参画され，設立後は世話係および評議員として本学会の発展に貢献されました。先生のご逝去は日本藻類学会にとってまことに惜しむべく，また悲しいことです。

先生は明治40年11月5日兵庫県養父郡養父町籔崎234-1に誕生されました。兵庫県立

豊岡中学校，第三高等学校理科に学び，京都帝大理学部に進み，小泉源一教授のもとで植物分類学を専攻して温泉藻類の研究をはじめ，昭和9年3月同大学を卒業されました。卒業後は同大学理学部の大学院に進まれ，続いて副手（無給）となり，昭和18年3月理学部助手に任ぜられました。昭和22年7月京大農学部助教授に昇任され，舞鶴市に創立された水産学教室に栄転，以来昭和45年3月まで22年8ケ月間水産植物学の教育と研究，同教室の充実と発展に尽力されました。昭和45年4月奈良女子大学理学部に教授として迎えられ，植物形態学講座を担当され，翌年4月停年により退官されました。なお，昭和26年から昭和44年まで2年毎に奈良女子大学理学部の講師として生物学科植物学専攻学生の臨海実習を指導されました。退官後は舞鶴市行永東町の自宅で悠々自適の生活を楽しまれる一方，近畿大学農学部および光華女子短期大学の講師をされました。

先生の処女論文は大学卒業後4年目に出された "Cyanophyceae of Japan, I" (1937) で，同年広瀬弘幸氏の出された "北海道産藍藻類（其一）" とともに，日本の藍藻類分類学のまとまった最初の論文として記念すべきであります。この論文は7報（I—VII）(1937—'42) まで続き，先生の学位論文 "日本温泉産藍藻類" となり，昭和19年1月17日京都大学から理学博士号が授与されました。この第II報（1938）で，*Microcystis thermalis*, *Oscillatoria sakasitae*, *Lyngbya Pithophorae*, *L. affixa* の5新種を記載されました。その後温泉産藍藻として30におよぶ新種新変種を発見記載されました。

先生は日本各地の温泉群または池・沼・泉水地を歩いて，温泉藻と淡水藻の研究を進められました：北海道の温泉群（1939—'62），別府の温泉（1938），上高地明神池（1939），鹿児島県指宿温泉群（1940），奈良県（1941），島根県（1941），岐阜県（1942, '49），富山県（1942），石川県（1942），和歌山県（1942），岡山県（1942）。高温泉に特徴的な藍藻 *Synechococcus* を再検討され，14種6変種を分類されました。その他，気生藍藻 *Spelaeopogon Koizumianum*（ミヤコアナケノリ）(1942)，愛嫌県松山市郊外のおきち泉で発見の紅藻 *Nemalionopsis tortusa*（オキチモヅク）(1940，八木繁一氏と共著)，岐阜県養老村菊水泉から褐藻 *Heribaudiella fluviatilis* (1949)，和歌山県田辺市の北島脩一郎氏宅に飼育のイシガメの背甲に生育の緑藻 *Basicladia crassa* (1952) など多くの新種や珍種を発見されています。1952年には，日本の温泉産藍藻類の研究業績を総括され，研究史，分類，生態，分布など詳細に考察されました。それによると，日本温泉産藍藻類は26科51属290種となり，江本義数氏，広瀬弘幸氏らとともに，日本の温泉藍藻類の分類学の大系を確立された業績は将に偉大と讃えることができます。

京都大学農学部水産学教室に在職中に，福井県三方湖の植物プランクトン相とその季節的変動を研究され，藍藻の新品種 *Raphidiopsis mediterranca f. major* (1953) を出された。その他，赤潮プランクトンの研究（1953，吉田陽一氏と共著），イワシと食餌プランクトンとの関係（1955，吉田陽一氏と共著）など水産学関係の研究や，褐藻オキナヴチワの生活史の研究（1962，私と共著）があります。現代生物学大系（中山書店）

5巻下等植物 A "藍藻植物"（1966）を担当され，その流暢な文章と美麗な挿図は藍藻の興味を抱かせます。

京大農学部水産学教室（舞鶴市）で開催の日本水産学会年次大会のあった昭和26年5月6日の夜，日本に藻類学会を創立しようという会合が東舞鶴の松栄館でもたれました。その時，地元の米田先生と私も参加し，瀬川宗吉・新崎盛敏・中村義輝・須藤俊造・片田実・瀬木紀男・長谷川由雄の諸氏が集まりました。これが嚆矢となって翌年7月28日の東京の東海区水産研究所，同年9月26日の函館市景福での会談へと発展して，その実現が熟していきました。昭和27年10月11日東大理学部第2号館地下室での準備発起人会に出席され，さらに昭和28年10月10日金沢大学で開催の第18回日本植物学大会の際の第1回総会に参加されるなど，積極的に本学会の創立に貢献されました。設立後は世話係として，特に会員の獲得に尽され，また評議員（昭和38～39及び44～45年）として学会の発展に尽力されました。そして，藻類第2巻第1号には論文 "宮崎県吉田温泉群の研究" を寄稿され，その中で初めて英語の Résumé を書かれて，本学会が国際的に発展すべきことを卒先実行されました。

先生は中学時代にファーブルの昆虫記に感銘し，生涯を生物を友に顕微鏡を覗く生活を送くることになりました。また，当時より，高山樗牛の文学に魅せられ，その後は日本文学を幅広く愛好し，書斎には藻類専門書と同じ程文学書が積まれていました。帰宅後は文学書の愛読を楽しみとし，しばしば徹夜されることもありました。

先生は1男3女の温厚なよい父として，質素で平和な家庭を築かれました。昭和48年暮高血圧で倒れてからは奥様の献身的な看護と，暖い日のお二人の散歩は近所の人々の尊敬と羨望でした。辛拘強いご療養の甲斐もなく，去る5月6日午後10時脳出血という突如の病魔に襲われ，永劫の旅立となりました。まことに痛痕の極であります。終りに，先生の安かなるお冥福を祈ります。

（京都大学農学部水産学教室）

研究業績目録

1937. Cyanopbyceae of Japan, I. Acta Phytotax. Geobot. 6 (3): 179-209,
1938. Cyanophyceae of Japan, II. Ibid. 7 (2): 88-101.
——. Cyanophyceae of Japan, III. Ibid. 7 (3): 139-183.
——. 別府温泉産藍藻類. 同上. 7 (4): 213-221.
1939. Cyanophyceae of Japan, IV. Ibid. 8 (1): 32-49.
——. 上高地明神池の淡水藻類. 同上. 8 (2): 128-134.
——. 北海道に於ける温泉藻類の研究（Ⅰ）. 同上. 8 (2): 101-107.
——. 北海道に於ける温泉藻類の研究（Ⅱ）. 同上. 8 (3): 148-163.
1940. Cyanophyceae of Japan, V. Ibid. 9 (1): 39-50.
——. 淡水産紅藻の一新種オキチモヅクに就て. 同上. 9 (2): 82-86. (八木繁一・米田勇一).
——. 北海道に於ける温泉藻類の研究（III）. 同上. 9 (4): 192-202.

——. 日本産温泉植物の研究. VI. 指宿温泉群の細菌類及び藻類. 生態学研究 6 (4): 257-274. (江本義数・米田勇一).

1941. Cyanophyceae of Japan, VI. Acta Phytotax. Geobot. 10 (1): 38-53.

——. 北海道に於ける温泉藻類の研究 (IV). 同上. 10 (3): 159-171.

——. 北海道に於ける温泉藻類の研究 (V). 同上. 10 (4): 229-253.

——. 奈良県下二温泉の細菌類と藻類. 温泉科学 1 (2): 1-13. (江本義数・米田勇一).

——. 島根県の温泉植物 (其一). 植物研究雑誌 17 (11): 654-663. (江本義数・米田勇一).

——. 島根県の温泉植物 (其二). 同上. 17 (12): 704-720. (江本義数・米田勇一).

1942. Cyanophyceae of Japan, VII. Acta Phytotax. Geobot. 11 (2): 65-82.

——. 岐阜県下諸温泉の細菌類及び藻類. 同上. 11 (2): 83-100.

——. 和歌山県下諸温泉の細菌類及び藻類. 同上. 11 (3): 194-210.

1942. 石川県産温泉藻類. 同上. 11 (3): 211-215.

——. 故御旅屋太作氏採集の富山県冷泉産藻類に就て. 同上. 11 (3): 225-226.

——. 藍藻 Spelaeopogon の一新種. 同上. 11 (4): 329-332.

——. 岡山県下ノ諸温泉ニ産スル藻類. 植物研究雑誌 18 (4): 201-214.

1943. 日本産 *Synechococcus* に就て. 植物分類地理 13 (1): 89-105.

1949. 美濃国養老村菊水泉の藻類に就て. 植物研究雑誌 24 (1/2): 169-175.

1950. 大和国盛坂附近の藻類について. 植物分類地理 12 (4): 193-197.

1952. A general consideration of the thermal Cyanophyceae of Japan. Mem. Coll. Agr., Kyoto Univ. 62: 1-20.

——. Observations on the algae growing on the pond tortoises, with special reference to *Basicladia crassa* Hoffman & Tilden. Publ. Seto Mar. Biol. Lab. 2 (2): 227-237.

——. カメの背甲に着生する藻類. 南紀生物 4 (1/2): 1-8.

——. 北海道に於ける温泉藻類の研究〔VI〕.〔昆布温泉群〕. 温泉科学 5 (1): 11-15.

1953. A contribution to the Cyanophycean flora of Oze, central Japan. Jap. Jour. Bot. 14 (1): 99-124.

——. The phytoplankton of Lake Mikata. Mem. Coll. Agr., Kyoto Univ. 66: 39-62.

1954. 吾妻山の高位湿原藻類. 植物分類地理 15 (4): 121-122.

——. 宮崎県吉田温泉群の藻類. 藻類 2 (1): 6-12.

1955. イワシとその食餌プランクトンとの関係—I. マイワシの摂餌量について. 日本水産学会誌 21 (2): 62-66. (米田勇一・吉田陽一).

1957. 赤潮の生理生態学的研究—I. 赤潮プランクトンの垂直的移動について (1). 同上. 19 (7/8): 405-409). (米田勇一・吉田陽一).

1959. プランクトンの個体数並びに組成の同時表示法について. プランクトン研究連絡会報 6: 1-4. (米田勇一・吉田陽一).

1962. 北海道における温泉藻類の研究. VII. 植物分類地理 20: 308-313.

——. アシツキとカモガワノリ. 同上. 20: 313.

——. Morphological and embryonal studies of *Padina japooica* Yamada. Ibid. 19 (2/3): 78-90. (Umezaki, I. & Yoneda, Y.).

1966. 藍藻植物. 現代生物学大系5巻. 下等植物 A. 73-101頁. 中山書店. 東京.